



# 添田町

そえだまち

神秘の山に  
抱かれた  
歴史あふれるまち

## 英彦山

福岡県と大分県の県境にある霊峰(標高1199m)。古くから日本三大修験道霊山のひとつとして多くの信仰を集めてきた。登山道を歩くと、かつて山伏たちが修行した行場があちこちに見られる



■ 高住神社  
豊前坊天狗神として有名で、天狗伝説の地としても知られる。本殿は岩の中にのめり込むように建立されている



■ 添田町めんべい工場  
廃校の体育館を改装して建てられた工場。製造の様子を見学できるお土産ショップのほか、女子ソフトボールチームの創設など、地域ににぎわいをもたらしている



■ 道の駅 歓遊舎ひこさん  
今年4月にリニューアルオープン。物産館には町自慢の逸品が勢揃い。人気のバイキングレストランでは鯉のあらいも堪能できる



■ 旧数山家住宅  
1842(天保13)年に建てられた豪農の邸宅。開放的な屋敷と広間が特徴。原型をよくとどめており、国の重要文化財に指定されている。見学無料



■ 英彦山  
涼やかな夏の新緑や秋の紅葉を求めて、一年を通してたくさんの登山客が訪れる英彦山。貴重な野鳥や植物の宝庫であり、修験の山としての趣も楽しめる



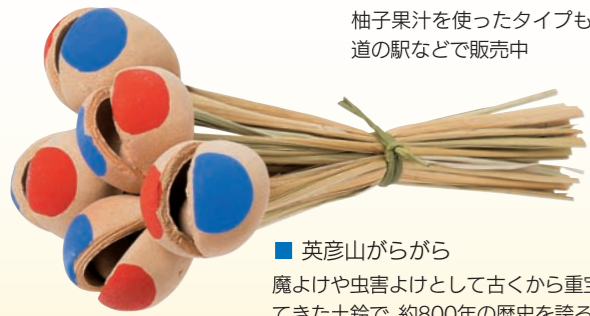
■ 英彦山花園  
スロープカーの「花駅」そばにある花園。高山植物を中心に70種類以上、3万2千本以上の花木が植樹されている。シャクナゲやラベンダーなど、季節の花を楽しむことができる



■ 柚子ごしょう  
地元産の柚子をたっぷり使った柚子ごしょうは、季節を問わず人気。英彦山の山伏が保存食として作ったのが始まりといわれている



■ 英彦山サイダー  
添田町の地下水を使用したスッキリ爽やかな味わいのサイダー。柚子果汁を使ったタイプも好評。道の駅などで販売中



■ 英彦山がら  
魔よけや虫害よけとして古くから重宝されてきた土鈴で、約800年の歴史を誇る。素焼きならではの乾いた素朴な音色が特徴でお土産として人気。県指定の特産民芸品



■ 添田ブランド  
味噌やしいたけを使った素朴な味わいの総菜から、あんずやいちごを使った果実のジャムまで、地元のお母さんたちが町の特産品を使って作る加工品が人気



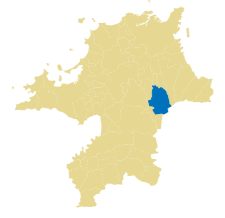
■ 川魚  
町内には、鯉のあらいやヤマメの唐揚げなど、清らかな水が育んだ川魚を楽しめるお店が多数。川魚特有の臭みが無く、あっさりとした食感で美味



■ 英彦山神宮奉幣殿  
1616(元和2)年に初代小倉藩主細川忠興によって寄進・再建され、明治時代に奉幣殿と改称。今年で再建400年を迎える。風景に格調高く溶けこむ入母屋造り・桃山様式の壮麗な社殿は、国指定の重要文化財

自然と歴史が育む  
活力のあるまち

■ 問い合わせ  
添田町役場  
田川郡添田町添田2151  
☎0947-82-1231  
ファクス0947-82-2869  
https://www.town.soeda.fukuoka.jp/



添田町では、若い世代の定住を促そうと、小学生以下の子どもを持つ40歳以下の夫婦を対象に、新築の戸建て住宅を月額3万5000円で貸し出しています。今年3月には、町内に賃貸住宅6戸が完成し、6世帯23人が入居しました。町では、平成31年度までに同様の住宅を計30戸新築する計画を推進しており、子どもを産み育てやすい環境が広がっています。

添田町若者定住住宅



「ひこちゃん」「うずちゃん」  
英彦山がらと山伏をモチーフに、町制施行100周年を記念して誕生しています。

福岡県の東南部、英彦山の麓で豊かな自然の恵みを受けながら発展を遂げてきた添田町。平成23年に町制施行100周年を迎えました。  
耶馬(やば) 耶馬日田英彦山国定公園の四季折々の風景のほか、修験道(しゆげんどう)の影響を色濃く残す歴史や文化が古来より受け継がれています。また、近年、英彦山はパワースポットとしても注目を浴びています。  
町では、今年度中の英彦山の国の史跡指定を目指しており、「歴史のまち」としての新たな活力も生まれています。



収穫祭は、クチコミにより年々参加者も増加。県外からの観光客の姿も目立つ



会長の松崎和彦さん(写真左)と上田定さん。同会は、九州農政局長賞を受賞



昨年11月に開催した第1回「姫活祭」の様子

## 上津野村づくり推進協議会

みんなの絆で「村」を豊かに。里山の宝を継承

美しい山あいの風景が広がる上津野地区。230人ほどが暮らすこの集落で、地域の活力を取り戻そうと、平成10年に発足したのが「上津野村づくり推進協議会」です。メンバーは38人。活性化センターや親水公園などの生活環境の整備、グリーンツーリズムの開催など、住民が主体となったまちづくりを行っています。中でも結成当初から毎年行っている収穫祭は、昨年で18回目。子ども会が主催するヤマメ釣り体験や、女性たちが作るしし鍋など、住民みんなで作る地区最大のイベントへと成長しています。

「歴史や自然だけでなく、昔ながらの助け合いの精神がここには残っています。先祖代々受け継がれてきた里山の宝を、次の世代に残していきたい」と話すのは、会長の松崎和彦さん。これからも地域の絆を生かした里山づくりに励んでいきます。



歴史や植物、詩吟など、各メンバーが得意分野で観光客を案内



周辺は珍しい植物の宝庫



山伏の家「財蔵坊」の前で、会長の植田周平さん(写真左)とガイドの皆さん

おもてなしの心で英彦山を案内する観光ボランティア

「英彦山の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」という思いから、平成9年に結成された「添田町観光ガイドボランティア」。英彦山周辺の史跡や自然、動植物の無料ガイドなど、現在は8人で活動を行っています。「勉強するほどに英彦山の奥深さが分かり、今度は誰かに伝えたいかなんです。町内はもとより、飯塚市や北九州市などから来ているメンバーもいます」とほほ笑むのは、会長の植田周平さん。

観光ガイドのほか、県の有形民俗文化財である山伏の家「財蔵坊」の管理・運営も行い、「一般公開する土日祝日には、囲炉裏に火を入れて、訪れた観光客を出迎えます。「町が目指している英彦山の国の史跡指定に合わせて、今後は私たちも地元の活性化に寄与できたら」と話す植田さん。これからもまちの魅力を、広く世間に発信していきます。



木の感触を日常的に感じてもらおうと、間伐材を利用した雑貨を製作



会長の荒木光子さん(写真右から2番目)と、会員の皆さん



添田小学校学童保育所での環境学習。子どもたちに木材の良さを分かりやすく伝えるために手づくりの紙芝居を行う

## 筑豊地区女性林業研究グループ

林業を元気に！ 森林を守り育てる女性たちの活動

筑豊地区に住む女性たちの手によって、平成19年に結成された「筑豊地区女性林業研究グループ」。活動は10年目を迎え、「木育」をキーワードに、地元の森林を育てるさまざまな活動を行っています。

「まずは自分たちが森林について学ぶところから」と、活動の初期から毎年継続している自学研修のほか、幼稚園や小学校に向いての環境学習にも力を注ぎます。椅子を作る工作体験や、木登りや枝打ちの体験イベントを通じて、子どもたちは木材の持つ手触りや温かみを感じながら、森林の大切さを楽しく学んでいます。

「木材を使ってモノを作ることの喜びを伝える。そこが木育です」と話すのは、会長の荒木光子さん。「これからはシニア世代にも活動の幅を広げたい」と、豊かな森の恵みを伝える活動が広がっています。



農家での研修は毎日実践的な体験ばかり



4期生の山田真梨子さん(写真左)と、研修生・卒業生の皆さん



自ら育てた野菜の収穫の喜びはひとしお

新規就農を町ぐるみで応援！ 実践的に農業を学ぶ

未来の農業の担い手を育成しようとして、平成24年から始まった「添田町就農実践塾」。町や宮農組合などで組織される「添田町就農支援推進協議会」が運営、塾生たちは3年間農家での実践的な研修を経て、町内での就農を目指します。これまでに8人が入塾し、3人が卒業。農業への第一歩を踏み出しました。期間中は、月に7万円から20万円の範囲で助成金が支給されるなど、支援体制の充実ぶりは町内外からも注目を集めています。

「研修に専念できる体制が整っており、町全体が応援してくれているように感じます。分からないことをいつでも聞ける環境にあるのが嬉しい」と、今年4月に入塾した女性初の研修生、山田真梨子さん。

地域に根付いた農業の新しい芽は、着実に成長を続けています。